

第1回 坂出市まちづくり基本構想審議会

■日時・場所

日時： 令和7年9月22日（月） 14:00～15:30

場所： 坂出市役所本庁舎本館2階大会議室

■次第

1. 開会
2. 会長・副会長の選出
3. 諮問
4. 審議
議題（1）次期基本構想策定スケジュールについて
議題（2）アンケート調査の結果について
議題（3）坂出市まちづくり基本構想骨子案について
5. その他
6. 閉会

■資料

次第

- 資料1 : 次期基本構想スケジュール
- 資料2 : 市民アンケート調査結果 概要版
- 資料3 : 事業者アンケート調査結果 概要版
- 資料4 : 次期基本構想 構成案
- 資料5-1 : 次期基本構想 重点課題整理
- 資料5-2 : 次期基本構想 重点テーマ
- 資料6 : 次期基本構想 骨子案

■会議風景



■参加者

* 敬称略・順不同

属性	氏名	所属	出席
会 長	古川 尚幸	香川大学経済学部 教授	○
副 会 長	三谷 朋幹	坂出商工会議所 会頭	○
委 員	入江 正憲	坂出市連合自治会 会長	○
委 員	淡河 洋一	一般社団法人坂出市医師会 会長	○
委 員	中橋 恵美子	認定 NPO 法人わははネット 理事長	○
委 員	高木 万佐子	社会福祉法人坂出市社会福祉協議会 総務福祉係長	○
委 員	信濃 優子	株式会社百十四銀行坂出支店 次長	○
委 員	林 陽子	坂出市教育委員会 教育委員	○
委 員	松浦 由紀	株式会社四国新聞社 地方部長	○
委 員	岡田 真	坂出市 PTA 連絡協議会 会長	○
委 員	高木 政博	坂出市保育所等保護者会連合会 会長	○
委 員	山本 凌平	令和 7 年坂出市はたちの集い地区代表スタッフ会議 地区代表	欠
委 員	小泉 真理	認定新規就農者	○
委 員	竹内 賢寛	坂出市地域おこし協力隊	○
委 員	坂本 佳奈	坂出かけはし大使	○
委 員	山元 徹	市民公募委員	○
委 員	瀬戸 光浩	市民公募委員	○

■記録

1. 開会

2. 会長・副会長の選出

会長 古川 尚幸
副会長 三谷 朋幹

で決定

3. 諮問

4. 審議

会	長	まちづくり基本構想は作って終わりではなく、市民の皆様に読んでいただき、将来の坂出市に希望を持っていただくような基本構想にしたいと思っているので協力をよろしくお願いします。
---	---	---

議題（１）次期基本構想策定スケジュールについて

－事務局より資料１について説明（記録省略）－

全	員	意見なし
---	---	------

議題（２）アンケート調査の結果について

－事務局より資料２、３について説明（記録省略）－

会	長	まず市民アンケートについて思ったことは、住みやすい、どちらかと言えば住みやすいと感じている人が多いということである。しかし実際には人口が減少しており、住みにくいという意見が多いのかなと思っていたが、住み続けたいという意見も意外に多かった。
---	---	---

問１１～１３について平均点は概ね６点（１０点満点中）だが、この６点という点数は他の自治体との比較でも構わないので、高いのか、低いのか、こんなものなのか、どう判断したら良いのか。

事	務	局	高くも低くもないと感じている。
---	---	---	-----------------

委	員	住みやすいと回答された方はもともと坂出市に住んでいる方なのか、Ｉターン、Ｕターン含む県外から転入者なのか。
---	---	---

事	務	局	市民全般からの意見ということで、そういった属性（内訳）分析は行っていない。
---	---	---	---------------------------------------

会	長	属性については確認しているが分析ができていないのか、それとも確認していないのか、どちらか。
---	---	---

事	務	局	問６で坂出市での居住状況（住み続けている、戻ってきた、転入してきた等）に
---	---	---	--------------------------------------

		ついて確認しているので、ご指摘の属性(内訳)分析は可能である。
委	員	問 14「坂出市に愛着があるか」についてはクロス集計されており興味深い。19歳以下と 75 歳以上は 70%を越えて坂出に愛着があると回答しているにも拘わらず、40 代は 50%台でこの働き盛りの年代が愛着を持てていないということを細かく捉えることによって課題が見えてくるのではないか。例えば働きづらさがあるのか、40 代、50 代は子育てのしづらさを感じているのか、愛着を持てない原因が気になる。
会	長	19 歳以下は他地区に住んだ経験がなく、これまで自分が住んでいた環境が全てであるということ、75 歳以上はこれまでずっと住んでおり愛着があるから現在も住んでいるということではないか。20 歳から 74 歳までは仕事で多忙なため、まちと関わる機会も少ないのではないかと感じた。
委	員	銀行のお客様を通じて坂出の情報を得ることが多いが、市外に住みたい理由がこれまで聞いてきた状況と違っていると感じた。一番の理由である「買い物が便利」ということは皆さんがおっしゃっていることだが、教育環境が悪い、都市部へのアクセスが悪いとあるが、坂出は岡山や高松に行くのも便利で、インフラ整備とはまちなかのバスを指しているのではないか。働く場所が多いという点については、坂出には上場企業や工場関連企業もあり最近外国人も増え、働く人が集まるというイメージと食い違いがあると感じる。医療機関、福祉施設についても坂出は病院が多いと思っていたが、「医療機関が充実したまちに住みたい」というのは、充実しているというイメージがないということで、私どもの捉え方と違っていると感じた。
会	長	公共交通に関しては報告書の 6 ページ、回答者のお住いの地区を見ると、西部、中央、東部が少なく、ボリューム的には川津、林田、府中等の意見も反映されているのではないか。そのあたりはクロス集計してみないと分からないが、買い物や教育についても、坂出の中心部と郊外では意見が違うのかもしれない。
委	員	私は林田地区に住んでおり、会長のご意見に共感する。川東地区はバスが少なく、夜はタクシーも来てくれない。塾や習いごとなどで、中高生は遅い時間帯になると親が車で駅まで送迎せざるを得ない。駅周辺地区と川東地区では感覚が異なる。交通が不便な地区であるが、それなりの人数がいるので意見が割れてくるものと思われる。
会	長	一般的に坂出は交通の結節点で大きな病院や学校も多いと言われるが、中心部と郊外では住民の考え方がかけ離れており、その点を見誤らないようにしなくてはならない。
委	員	医療機関が充実したまちに住みたいという一つの理由は、坂出市内の医療機関が信用されていないということである。手術を伴うような大きな病気の場合、坂出市内では完結しないという考え方が根底にあり、小児科についても症状がひどくなったら善通寺へという、それらを指しているものと思う。教育に関してもレベルの高い高校は私立高校含め市外にあるので、そちらに進学してしまう。

会	長	医療機関の問題が解決できるかどうかは分からない。 確かに塾や習いごとの施設は郊外には少なく、私も気づかされた。
委	員	回答者の年齢から学生が多いと思われるが、働いている 20 代後半から 40 歳前の年齢層では、属性によって 3%とか 5%とかムラがある。特にまちを支え労働している年齢層のニーズは気になるところであり、クロス分析を見てみたい。
会	長	クロス分析を丁寧に行っていただきたい。 次に事業者アンケートについて、意見、質問をお願いする。
会	長	DX について、取組む予定なしが 4 分の 1 もあり絶望的と思うが、それで問題ないのかと感じた。
委	員	坂出の農業は野菜栽培が大半だと思うが、このアンケートは果樹栽培者からの意見も含まれているという理解で良いか。
事 務 局		まんべんなくアンケートを送付したが、この中に果樹栽培者が含まれているかどうかは不明である。
委	員	野菜は平地、果樹は山手で栽培しており、果樹はイノシシ被害、野菜は別の困りごとがあるため、同じ農業者（業界）でも意見の食い違いがある。
会	長	具体的にどの部分に食い違いがあるのか。
委	員	外国人は野菜農業者が採用しており、果樹農業者は外国人を採用せず家族で完結しているところが大半で、果樹農業の後継者はおらず辞めていく方ばかりなので、果樹農業は将来発展しないと判断している。
会	長	無記名なので、この 34%の中身が野菜農業者か果樹農業者かは分からないということか。
事 務 局		回答者は無記名なので分からない。
委	員	事業者アンケートの 2 ページ女性活躍の推進に効果のあった取組みについて、就業時間、フレックス、深夜業務の免除など効果があったとの記載があるが、これを女性の問題にしていること自体、時代が終わっている、時代を読めていないアンケート項目であると感じる。男性に対してもフレックスが女性活躍に効果があったと読み取れば良いのかもしれないが、女性活躍が進んでいない主な原因の上から 3 番目、「本人が昇進を望んでいないため」は女性の問題として片づけており、そのまわくには「女性」がついている。アンケートの組立て、回答の選択肢が今の時代に合っていないし、まだそういう意識なのであれば坂出市全体の女性活躍、男女共同参画の意識付けをしていかなければならない。働き方は男性も含め会社の制度や男性の育休の普及、女性が残業できる環境（家族の理解も含め整えていく）等が国で議論されているなか、遅れた質問と思う。
会	長	事業者アンケートの回答者の属性は確認していないと思うが、今の質問は男性回答者がおそらくこうだろうという回答がここに記載されているという指摘だと思うので、この意見も入れていただきたい。

議題（３）坂出市まちづくり基本構想骨子案について

－事務局より資料４、５-１、５-２、６について説明（記録省略）－

委 員	人口問題は、まちづくりの根底にあると思うが、どれくらいで落ち着くと考えられているか。
事 務 局	今年度の３月に策定した人口ビジョンにおいては、目標人口を４万人としている。過去のデータから判断するともう少し人口は減少する。これからまちづくりを進めるにあたり、例えば出生率を上げる、社会増減のマイナスを食い止める等の施策実施により、目標人口を４万人としている。
委 員	まちづくりで人口を増やすというのは無理だと思う。人口減少を食い止めることは重要だが、人口を増やすということを考える必要はない。効率の良いコンパクトなまち、かつ人口の偏在も考慮したまちづくりのビジョンを考えるべきである。川東地区の人はまちの中心部に来てもらおうというようなことも考えなければならないのではないか。
事 務 局	日本全体が人口減少社会に入り、地方はその傾向が顕著で高齢化も進行している。人口を増やすということが難しいということは十分認識しており、現在の社会資本を使って如何にまちづくりを進めるかということである。市内で生まれ都市部の学校を出た子どもにいかにして坂出に戻って来てもらうか、そういったことも考えながらのまちづくり構想になる。
委 員	私は坂出で働いているわけでもなく、坂出に住んでいるわけでもない。綾川町で生まれ、走って数分で坂出市という場所に家があった。５０年前の子どもの頃、当時綾川町には何もなく月に１度の買い物で坂出のニチイに行き、帰りに食事をするのがとても楽しかった。冒頭、市長より坂出は中讃全体を引っ張ってきたという挨拶があったが、確かにその時代は坂出が中讃地域の牽引役として機能しており、買い物のみならず綾南町から多くの人が坂出に働きに来ていた。当時の坂出はすぐ隣にある大きなまちというイメージだった。しかし今現在、坂出が中讃地域を牽引していると考えている綾川町民はほぼいないと思う。この５０年間で坂出市に何が起こったのか。会社の集まりの場などで、他の市町の出身者は出身地自慢をするが、坂出出身者は坂出市についてほとんど何も話さない。しかし坂出市のマンションに住んでいる知人によると、坂出はすごく好きなまちだと言う。皆はないと言うが食事ができる店も近所に多くあり、大きな病院やマンションもある。商店街付近の空き家も市の助成金によってきれいにリフォームされ、子育てもしやすい。しかし、市外の人から「坂出に何があるのか」と言われるので、市外の人にあまり話をしないといわれたことが非常に印象に残っている。坂出で育った人が帰ってくるように、高松市で言われているシビックプライドを小さな頃から育てる施策にもっと力を入れるべきだと思う。
	実際にアンケートでは、住みやすいとの回答が多いのに、特に３０代、４０代の人の満足度が低い結果となっており、それは、買い物がしにくい事が確かに影響している。私は、綾川町にイオンができるまでは、宇多津に行っていた。宇多津はコンパクトシティで人口が保たれているとのことだが、同じコンパクトシティの琴平

は人口が減少し、税金も減って庁舎でさえ建て替えられない状況で大変困っている。コンパクトシティにすればすべて成功する訳ではなく、坂出は、交通の結節点であったり、工場が多かったり、環境面で悪いイメージがあるかもしれないが、反面では労働環境が整っている恵まれた面を、上手くアピールすることが必要である。

アンケートでは、自然が多いことがアピールポイントになっていたが、他市町の人には、そのイメージはほとんどない。しかし、実際には王越から向こうの五色台のあたりは、ミカン畑があり、トンボがいるビオトープや海があり、本当にすばらしい自然環境がある。また、坂出の文化・歴史もあまりイメージが湧かないと思うが、崇徳上皇や西行法師などに始まる素晴らしい文化がある。もっと市外の人にアピールしてはどうだろうか。

宇多津に住みたい人が多いのだから、もっと環境の良い坂出に住みたい人が多いはずなので、移住したい人に、働きやすさや岡山に近いことなどをアピールし、一番困っている買い物の状況やこの50年で変わってしまった駅前の状況を開発、発展させることを進めるべきだ。坂出は、すばらしいポテンシャルを秘めているので、この会で、小学生や中学生でも「そうだ」とわかるような基本構想を出し、10年後、20年後に綾川町民が「坂出に遊びに行こう」と言えるようなまちになればと思う。

会	長	資料6は、骨子案として、現行計画と次期計画が示されており、多少堅く書かれている。私から事務局には、本編と概要版が作られるので、本編は多少堅くても、概要版は、文字を少なく、イラストを多くし、デザインもわかりやすいものにして子どもにも読んでもらえるものにするようお願いしている。
---	---	---

委	員	読んで、行政側の覚悟が市民に伝わるものにするべきだ。
---	---	----------------------------

会	長	そのとおりだ。行政側からすると、「これは少しやり過ぎた」ぐらいが、ちょうどよいと思う。私も意見を出した以上そのようになっているかを確認する。また皆様からの意見も是非願います。
---	---	---

委	員	資料 5-1 の市民ワークショップで、目立った観光スポットが少なく、発信も出来ておらず、宿泊場所もないとの意見が気になる。私は、坂出市の「かけはし大使」に、坂出のよい所を届けたいと思い応募して、任命された。坂出は、駅前や瀬戸大橋記念公園などで様々なイベントがあるが、それらが知られていない。20代の私や、私の周りの人も、テレビ離れをしており、情報を得るのはSNSが多い。イベントや観光スポットなど、坂出の良いところを発信できずに知られていないのはすごく勿体ないので、SNSなど、若者にも知られるような発信方法があったら良いと思う。私は、4年前に坂出を出て1年前に戻ってきたが、「坂出るるぶ」があることを知らなかった。良いことが書かれているので、もっと広められたらと思う、色々な所に置いて、皆の目にとまるようにできれば良いと思う。
---	---	--

目立った観光スポットやイベントを発信ができていないので、「かけはし大使」として、もっとアピールできるイベントを増やしてもらい、皆さんに知ってもらえる機会が増えたら良いと思う。

会	長	坂出市の SNS は、他の自治体に比べて頑張っていると思う。しかし、どちらかと言えば、行政的な発信が多く、イベントの発信は少ないので、「かけはし大使」として、発信をしてほしい。 また、イベントに来てくださいと多くの人を集めることばかりではなく、イベントスタッフ側、つまり自分達が主催してイベントを行う主催者側を特定の人ばかりでなく増やしていくことが大事である。それがシビックプライドに繋がり、まちに関わる人が増えていくことになる。
委	員	資料 6 を見て、目標が多いと思う。できることは全部やった方が良いが、限られた人口、限られた人で行うのであれば、目標を少なくした方が良い。10 年前の計画を見せてもらったが、ほぼ同じ内容だと思うので、できる内容に絞った方がよいのではないかな。
会	長	まさに、その通りだと思う。行政的に本編の項目が多いのは仕方がないと思うが、それらの中で、何が要で大事なのかを示し、絞りこんだものを概要版で皆さんに見てもらうのが良いと思う。残念ながら、基本計画の本編をすべて見る人はめずらしく、概要版をみてももらえるかどうかだと思う。従って、概要版をいかに見せるか、市民の皆さんに手に取ってもらえるかが大切だと伝えている。
委	員	絞るという意味での意見である。愛知県のどこかで、携帯電話の使用時間を 2 時間に制限する条例がニュースになった。あれぐらい衝撃的なことがあると、子ども、40 代、50 代の私達世代も、「え、市役所どうなっているの」と意識付けができると思う。 アンケートの回答率は、通常 30% 程度なのか。素人なのでわからないが、この 30% の後ろに隠れている 70% の人はどう思っているのか、70% の人がどのように考えているかも考慮しなければならないと思う。 私は、京都市から坂出市に移ってきた。私たちの世代でも、車に乗れなくなる危機感が恐らくない。王越では、乗らなければバス、タクシーが無くなると、自治会が利用を促していると聞く。私が住んでいる林田は、バスは遅く、車の方が速くて便利という人が多い。私は、生まれ育った所の事を考えると、60 歳そこそこで免許を返したいと思っており、林田から坂出の駅に出てくる手段や、駅前にマンションを借りるかなどを考えている。私の周りの人は、車に乗れなくなるという考えは、まったくくない。坂出で生まれ育った人は、車がない生活が頭にないので、もっとバスとかタクシーを使いましょうとアピールできたら良いと思う。新聞で 11 月に自動運転のバスが走る記事を見た。私は、試しに乗ってみようと思っており、ここにいる方も一度は試してもらいたい。もちろん人が怪我をすることは良くないが、色々なところで、少しこすったとかで運行が中止される。このまちなかで自動運転が成功すれば林田にも自動運転車が 10 年、20 年後に走るので、足を引っ張ることなく、是非成功させて欲しいと声を大にして言いたい。 それと、市民側の意識改革も必要だと思う。都会から坂出に戻った人も多くいると思うので、都会の生活を知っている人が、どう便利だったか、どう生活できたかの話をして、高齢になって車を手放したいと思ったときに、手放すことができる坂出になってほしい。

会	長	行政のアンケートの回答が 30%というのは、比較的高い方である。70%が答えていないので、これらが全てか、に関しては疑問が残るが、結果として目に見えるものがないので、これに頼らざるを得ないと思う。 公共交通に関して、私は、高松に住んで大学に通っている。駅からループバスに乗っているが、高松のループバスは意外と人が乗っている。何がきっかけになっているのかわからないが、何か方法があるかもしれないので、事務局にはそのような研究もして頂きたい。
委	員	公共交通の話だが、私は退職後に、香川大学の地域マネジメント枠に通学している。公共交通として、おじちゃんやおばちゃんや無職の人が、ボランティアで助けが必要な方を乗せてあげる「助け合いカー」の研究に取り組んでいる。まちづくりラボにも参加しており、坂出駅から外に行くのは便利だが、高校生でも、まちなかの移動手段がないとの声もあった。 私も 90 歳の母親を坂出の外の病院に連れて行くとなると、マイカーしかない。それをなんとか、近所のおばちゃんやおじちゃんが、ボランティアカーのように助け合えるようにと研究している。愛知県では、そのようなことをやっているところもあるので、是非、坂出市でも考えてほしい。
会	長	他県には様々な事例があり、坂出でもやれることはあると思う。 これらの案を本日認め、これを基に今後の議論を進めていくこととする。

5. その他

会	長	言い残したこと、後から思いついたこと、情報提供などがあれば、お願いしたい。
委	員	PTA 側、企業側、商工会議所の青年部としての意見を述べる。 PTA としては、部活動の地域移行について、すでに移行が始まった部活動があり、色々と問題が出てきている、移行による良い面とともに実際の現場の声を届けたい。今月末に地域移行に関する意見交換会があるので、現場の声を届ける。また、小中学校の統合が進むなかで、PTA が衰退している状況である。認定こども園では、PTA ではなく保護者会となり、どちらかと言えば園や学校が主体であり、PTA はなくても良いのではないかという時代の中で、PTA として、親として、地域コミュニティとしてどのように携わっていくかも今後のまちの課題だと思う。 事業者側としては、雇用における人手不足の問題がある。関連して坂出市では外国人の方が増えているので、我々も外国人雇用を考えているところであり、消費者が拡大し経済発展にもつながるので、市全体として受け入れ体制を考えてほしい。 商工会議所青年部として、まちづくりの政策提言を出しており、今年度は、廃校利活用の提出を考えている。また、坂出市は、高速道路がフルインターチェンジ化し、災害が少ないことから防災拠点としての立地条件が良い。このような地の利を生かすことも検討願いたい。 SNS を活用し、紙媒体で手間がかかるアンケートから回答しやすい環境に改善することも必要だと思う。我々も回答をするという意識改革も大切だと思う。

委員	私の部署は、県政と経済と警察関係以外の全てを扱うので、毎日記者が送ってくる記事で市町比べができる。最近、坂出の記事が大変面白い。例えばブルワリーの記事、さぬき金時のような坂出の新しいグルメを育てる記事、また昨年の広報誌がとても素敵で、全国で賞をとった記事など、変わっていく坂出市の胎動を感じる。高松、丸亀を除くほかの市町と比べて、坂出市は、人口が5万人もいるなど大変恵まれているので、坂出のポテンシャルを活かし、坂出に誇りを持って進めていける施策を期待している。
----	---

6. 閉会

事 務 局 | 以上で、第1回坂出市まちづくり基本構想審議会を終了する。

以上